

イーストスプリング・  
インドネシア債券オープン  
(毎月決算型) / (年2回決算型)

追加型投信 / 海外 / 債券

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてインドネシアの債券に投資を行う投資信託証券に投資を行い、インカム・ゲインの確保および中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

【お問い合わせ先】

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス ⇒ 「ファンド情報」を選択 ⇒ ファンド名を選択 ⇒ 「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

作成対象期間 2023年2月21日～2023年8月18日

(毎月決算型)

第131期 2023年3月20日決算 第134期 2023年6月19日決算

第132期 2023年4月18日決算 第135期 2023年7月18日決算

第133期 2023年5月18日決算 第136期 2023年8月18日決算

(年2回決算型)

第11期 2023年8月18日決算

(毎月決算型)

日経新聞掲載名: ネシア債

第136期末	基準価額	4,983円
	純資産総額	13,332百万円
第131期～ 第136期	騰落率	11.5%
	分配金合計	180円

(年2回決算型)

日経新聞掲載名: ネシア債年2

第11期末	基準価額	15,380円
	純資産総額	1,627百万円
第11期	騰落率	11.2%
	分配金合計	0円

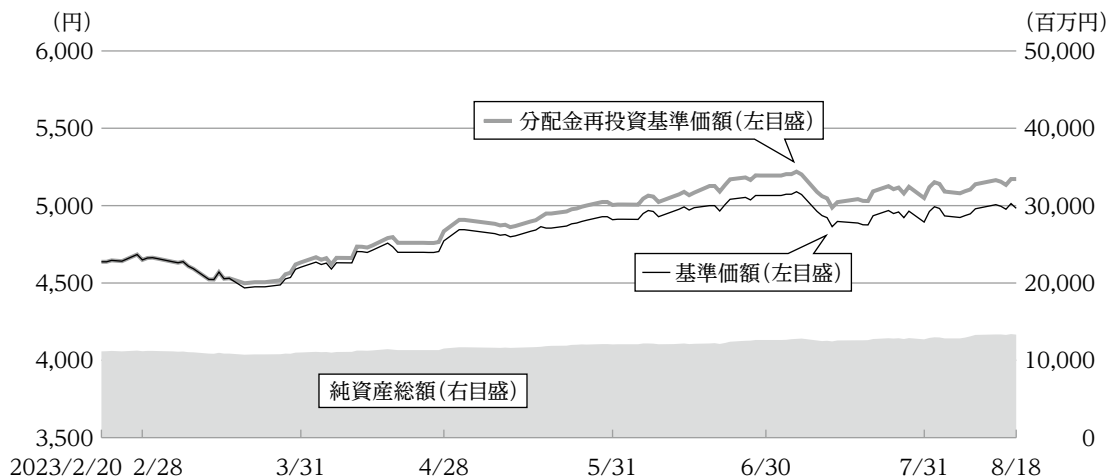
(注)騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 運用経過

(毎月決算型)

基準価額等の推移について

(2023年2月21日～2023年8月18日)



第131期首	4,637円
第136期末	4,983円 (既払分配金180円)
騰落率	11.5% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

## 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は上昇しました。

上昇要因

- ・債券価格が上昇(利回りは低下)したこと。
- ・インドネシアルピアが対円で上昇したこと。

# 1 万口当たりの費用明細

(2023年2月21日～2023年8月18日)

項目	第131期～第136期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	28円	0.588%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、4,815円です。
(投信会社)	( 9)	(0.193)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(18)	(0.383)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	( 1)	(0.012)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.010	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	( 0)	(0.003)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	( 0)	(0.000)	余資運用に係る費用（マイナス金利相当額）
合計	28	0.598	

(注1) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

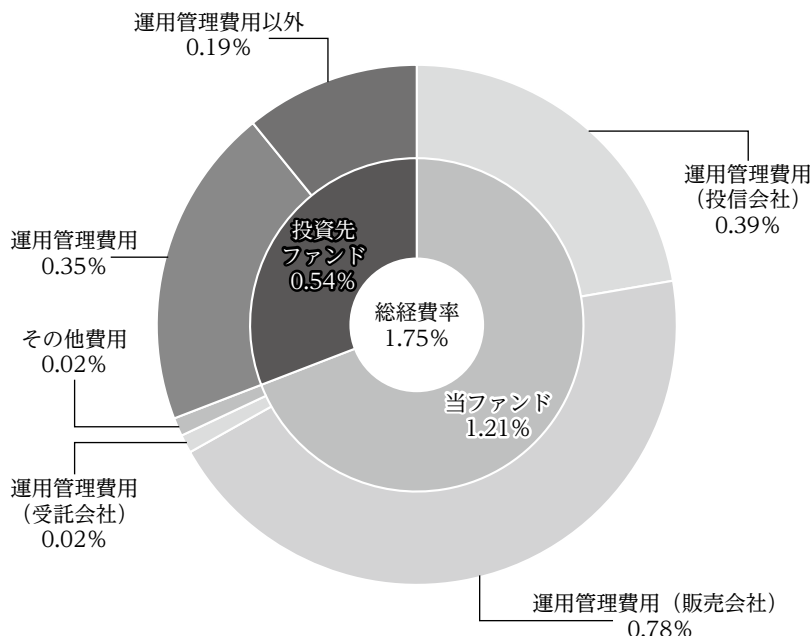
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## (参考情報)

### ■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.75%です。



総経費率 (①+②+③)	1.75%
①当ファンドの費用の比率	1.21%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.35%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.19%

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

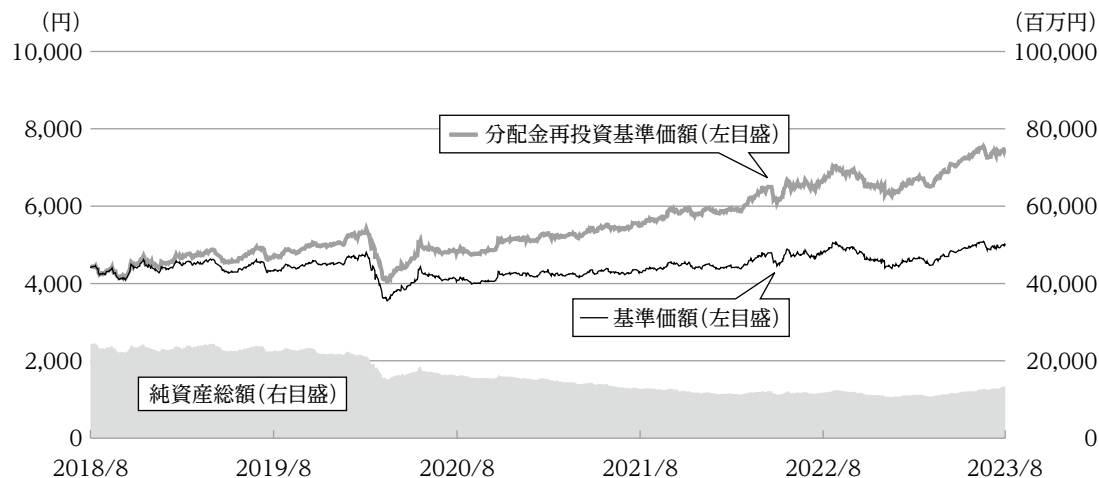
(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について (2018年8月20日～2023年8月18日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年8月20日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日		2018/8/20	2019/8/19	2020/8/18	2021/8/18	2022/8/18	2023/8/18
基準価額	(円)	4,405	4,326	4,094	4,273	4,772	4,983
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	360	360	360	360	360
分配金再投資基準価額の騰落率(%)		—	6.6	2.9	13.7	20.9	12.6
純資産総額	(百万円)	24,296	22,425	16,130	12,699	11,687	13,332

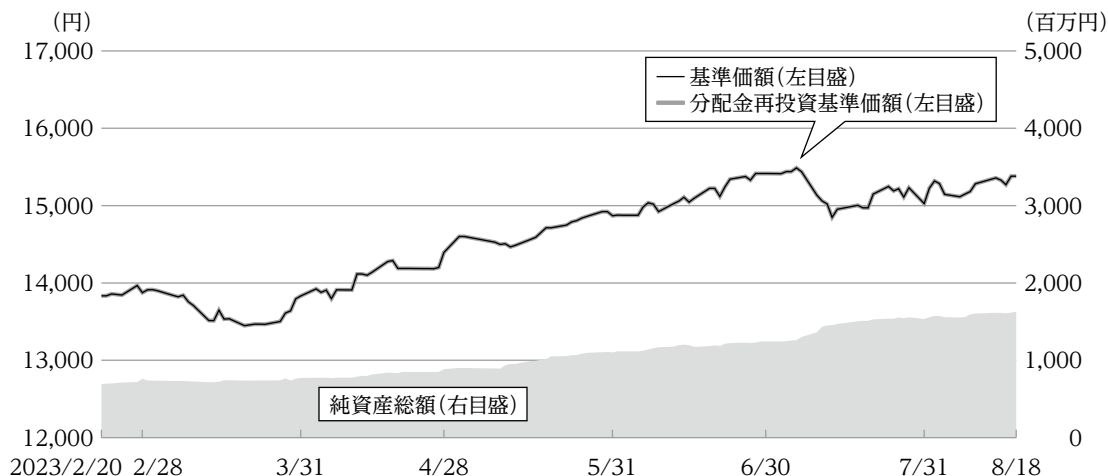
\*当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 運用経過

(年2回決算型)

基準価額等の推移について

(2023年2月21日～2023年8月18日)



第11期首	13,833円
第11期末	15,380円 (既払分配金0円)
騰落率	11.2% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

## 基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

上昇要因

- ・債券価格が上昇(利回りは低下)したこと。
- ・インドネシアルピアが対円で上昇したこと。

## 1 万口当たりの費用明細

(2023年2月21日～2023年8月18日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	86円	0.588%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は、14,568円です。
(投信会社)	(28)	(0.193)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(56)	(0.383)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	( 2)	(0.012)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	4	0.027	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 1)	(0.009)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	( 2)	(0.017)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	( 0)	(0.000)	余資運用に係る費用 (マイナス金利相当額)
合計	90	0.615	

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

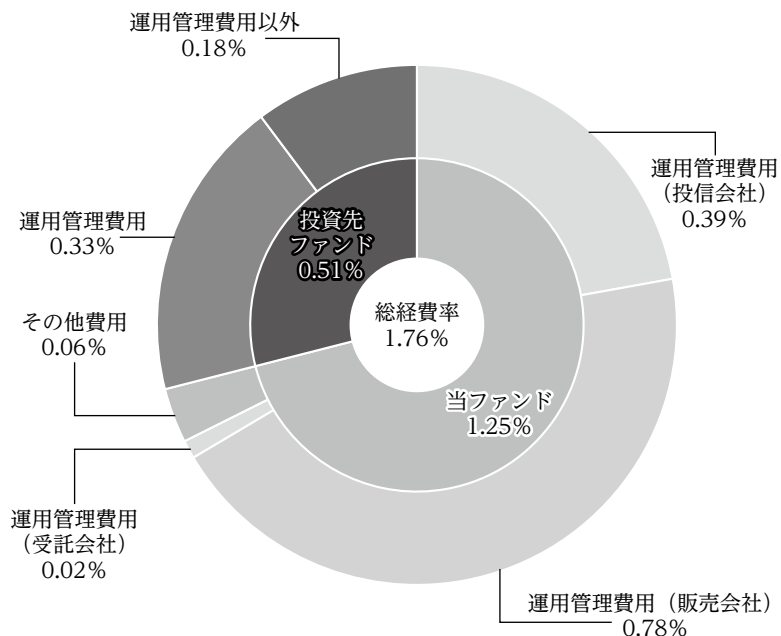
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## (参考情報)

### ■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.76%です。



総経費率 (①+②+③)	1.76%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.33%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.18%

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



## 最近5年間の基準価額等の推移について (2018年8月20日～2023年8月18日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年8月20日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日		2018/8/20	2019/8/19	2020/8/18	2021/8/18	2022/8/18	2023/8/18
基準価額	(円)	9,305	9,959	10,211	11,519	13,732	15,380
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)		—	7.0	2.5	12.8	19.2	12.0
純資産総額	(百万円)	34	345	231	272	657	1,627

\*当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

### インドネシア債券市場

当（作成）期、インドネシア債券の価格は上昇（利回りは低下）しました。当（作成）期初から2023年5月中旬にかけて、米国債利回りはインフレ率の鈍化への期待などを背景に低下傾向となったことから、インドネシア国債の利回りも低下しました。その後、米国の債務上限問題への懸念のほか、米連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利の見通しが引き上げられたことや、好調な経済指標などの発表を受けて米国債利回りは上昇に転じました。一方、インドネシア国債の利回りはインフレ率の鈍化や健全な財政などを好感した外国人投資家からの資金流入などに支えられ、7月中旬にかけて低下しました。しかし、当（作成）期末にかけては、米国で堅調な雇用を背景に景気が底堅く推移する中、米国債利回りがさらに上昇したことや、中国の景気減速懸念からリスク回避姿勢が強まったことから、インドネシア債券市場から外国人投資家の資金流出が見られ、インドネシア国債の利回りは上昇に転じました。

### 為替市場

当（作成）期、インドネシアルピアは対米ドルで下落した一方、対円では上昇しました。当（作成）期初から2023年5月上旬にかけて、米国の利上げ観測の後退などを背景に米ドルが下落したことや、インドネシアの金

融市場への外国人投資家からの資金流入を背景に、ルピアは対米ドルで上昇しました。その後は米国債利回りの上昇に合わせてドル買いが強まり、ルピアは下落傾向となりました。特に7月中旬以降は中国の景気減速への懸念からルピア安が進行しました。一方、対円では3月中旬の米国の地方銀行の破綻を受けたりスク回避の円買いの動きからルピアは下落しましたが、その後は円安の進行を背景に上昇しました。7月に日銀の政策修正への可能性が意識され、円が買い戻されてルピアが下落した局面がありましたが、期末にかけては再び円売り圧力が強まり、ルピアは上昇しました。

### 国内債券市場

当（作成）期、日本国債の価格は下落（利回りは上昇）しました。2023年3月中旬に米国の地方銀行の破綻を受けて金融不安が高まり、日本国債利回りは一時大きく低下しましたが、金融当局の迅速な対応により金融不安への懸念が後退し、利回りは回復しました。その後は狭い値幅での推移となりましたが、7月下旬に日銀が金融政策決定会合でイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の修正を決定し、長期金利の変動幅の上限を0.5%から1.0%としたことから日本国債利回りは大幅に上昇しました。期末にかけて日本国債利回りは0.6%近辺で推移しました。

## ポートフォリオについて

### イーストスプリング・インドネシア債券オープン (毎月決算型) / (年2回決算型)

主要な投資対象のひとつであるイーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド (以下「インドネシア・ボンド・マスター・ファンド」ということがあります。) の組入比率を高位に保つよう運用しました。

### インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

主としてインドネシアの債券に投資を行い、インカムゲインの確保とトータル・リターンを最大化を目指して運用を行いました。当(作成)期は債券価格の上昇(利回りは低下)と通貨ルピアが対円で上昇したことが基準価額のプラス要因となりました。

### イーストスプリング国内債券ファンド(国債) 追加型I (適格機関投資家向け)

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）  
 (毎月決算型)

項目	第131期	第132期	第133期	第134期	第135期	第136期
	2023年2月21日 ～2023年3月20日	2023年3月21日 ～2023年4月18日	2023年4月19日 ～2023年5月18日	2023年5月19日 ～2023年6月19日	2023年6月20日 ～2023年7月18日	2023年7月19日 ～2023年8月18日
当期分配金 (円)	30	30	30	30	30	30
(対基準価額比率) (%)	0.667	0.630	0.614	0.596	0.610	0.598
当期の収益 (円)	30	30	30	30	30	30
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	589	595	600	606	608	613

(年2回決算型)

項目	第11期
	2023年2月21日 ～2023年8月18日
当期分配金 (円)	—
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	6,363

(注1) 「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

## 今後の運用方針について

### イーストスプリング・インドネシア債券オープン (毎月決算型) / (年2回決算型)

主要な投資対象のひとつであるインドネシア・ボンド・マスター・ファンドの組入比率を高位に保つことを基本とします。

### インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

米国債利回りが上昇基調にある中でも、投資家の堅調な需要に支えられインドネシアの国債市場は堅調に推移しています。2023年7月のインドネシアのインフレ率は前年同月比+3.1%まで低下し、インドネシア中央銀行(BI)の目標レンジ(2-4%)の中間値に近づいています。コアインフレ率も同+2.4%と引き続き鈍化しており、BIはこれ以上の引き締めは必要無いとの確信を強めていると思われます。8月、BIは政策金利を7会合連続で据え置いた一方で、通貨の安定を維持することが政策の主眼であるとの姿勢を示しまし

た。また、海外からの資金を呼び込むために、新たなオペ(公開市場操作)の手段を発表しました。政策金利については5%の成長を維持するために2024年初めの利下げの可能性もあると考えられます。国債の需給環境も良好であり、運用担当者は引き続きインドネシア国債を強気に見ています。ポートフォリオのデュレーションをやや長めに維持し、債券価格が下落するような局面ではさらなる長期化を図る方針です。

### イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行い、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

## お知らせ

該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

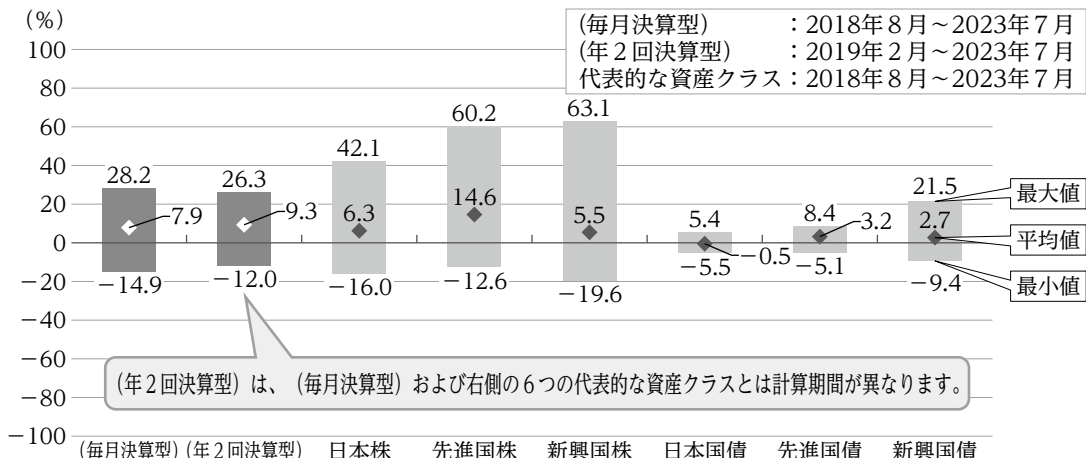
商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	(毎月決算型) 無期限 (2012年2月29日設定) (年2回決算型)無期限 (2018年2月28日設定)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主としてインドネシアの債券に投資を行うことにより、インカム・ゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資信託「イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド」(円建て)の受益証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)」の受益証券(振替受益権を含みます。)を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・株式への直接投資は行いません。
分配方針	(毎月決算型) 毎月18日(休業日の場合は翌営業日) (年2回決算型)毎年2月18日および8月18日(休業日の場合は翌営業日) 各ファンドの毎決算時に、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないことがあります。

## 指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)」のベンチマーク(ICE BofA 国債インデックス(1-10年債))について

ICEデータ・サービスおよびその関連会社は、提供するインデックスデータに関してその継続性、正確性、完全性を保証するものではなく、当該データ提供に係り発生し得る損害についてもその事由の如何を問わず責任を負うものではありません。

## (参考情報) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- ※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。  
 ※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
 ※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

### 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る商標又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI Inc. に帰属します。また MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI 国債	
先進国債	J P モルガン G B I グローバル (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権は J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。
新興国債	J P モルガン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

## ファンドデータ

(毎月決算型)

### 当ファンドの組入資産の内容

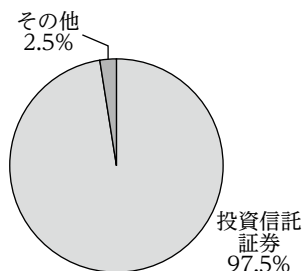
組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

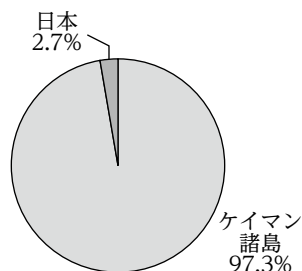
ファンド名	第136期末 2023年8月18日
イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド	97.3%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)	0.1%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

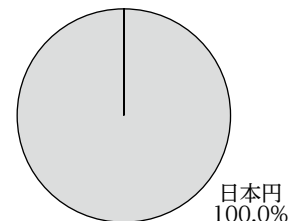
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

### 純資産等

項目	第131期末 2023年3月20日	第132期末 2023年4月18日	第133期末 2023年5月18日	第134期末 2023年6月19日	第135期末 2023年7月18日	第136期末 2023年8月18日
純資産総額 (円)	10,726,292,855	11,373,792,161	11,826,619,764	12,185,978,578	12,580,984,442	13,332,908,894
受益権総口数 (口)	24,007,251,484	24,025,817,307	24,357,835,841	24,369,691,596	25,745,501,817	26,755,731,696
1万口当たり基準価額(円)	4,468	4,734	4,855	5,000	4,887	4,983

\* 当作成期中(第131期～第136期)において追加設定元本額は4,350,960,227円、一部解約元本額は1,670,886,510円です。



## ファンドデータ

(年2回決算型)

### 当ファンドの組入資産の内容

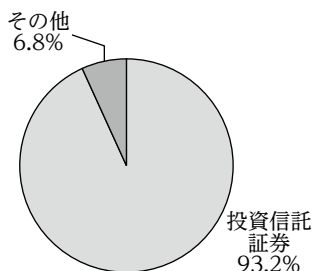
組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

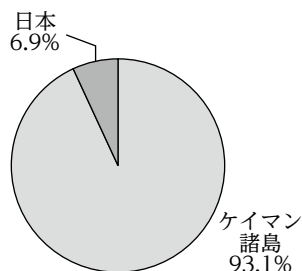
ファンド名	第11期末 2023年8月18日
イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド	93.1%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)	0.1%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

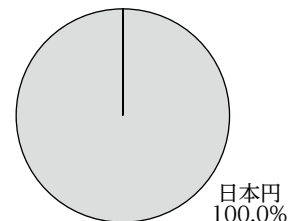
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

### 純資産等

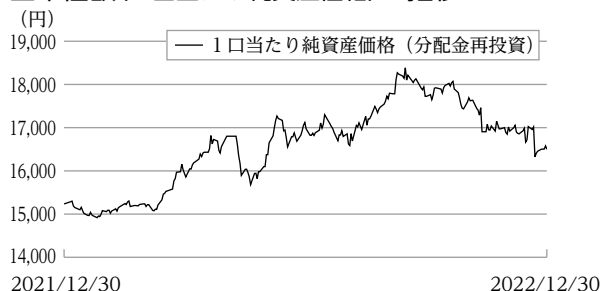
項目		第11期末 2023年8月18日
純資産総額	(円)	1,627,452,016
受益権総口数	(口)	1,058,149,612
1万口当たり基準価額	(円)	15,380

\*当期中において追加設定元本額は643,949,400円、一部解約元本額は87,205,732円です。

## 組入上位ファンドの概要

### <イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド>

#### 基準価額(1口当たり純資産価格)の推移



#### 1万口当たりの費用明細

(2022年1月1日～2022年12月31日)

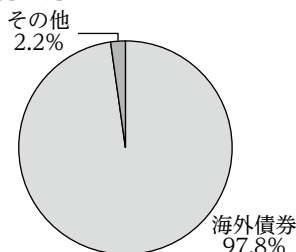
当該期間のFinancial Statements (監査済み) には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

#### 組入上位10銘柄(組入銘柄数：42銘柄)

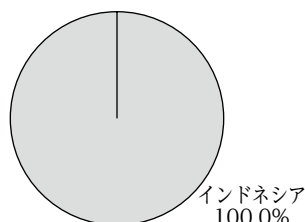
(2022年12月31日現在)

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
INDONESIA GOVERNMENT	国債	6.500%	2025/6/15	インドネシア	5.7%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	6.500%	2031/2/15	インドネシア	5.5%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	7.000%	2030/9/15	インドネシア	5.3%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	7.500%	2040/4/15	インドネシア	4.6%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2034/3/15	インドネシア	4.6%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	6.375%	2032/4/15	インドネシア	4.6%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2026/9/15	インドネシア	4.5%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	5.500%	2026/4/15	インドネシア	4.2%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.250%	2029/5/15	インドネシア	3.7%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	7.500%	2035/6/15	インドネシア	3.6%

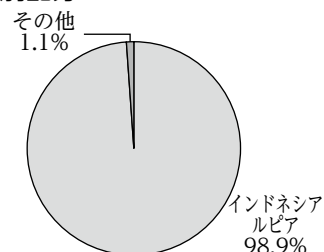
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの (監査済みおよび同時点の関連データを含む) を使用しています。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

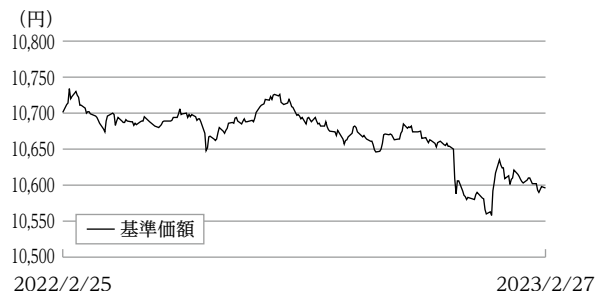
(注3) インドネシアルピア以外の通貨建ての債券に投資を行う場合には、原則として、実質的にインドネシアルピア建てとなるよう為替取引を行いますので、通貨別配分は当該為替取引を考慮し算出しています。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

## 組入上位ファンドの概要

### <イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）>

#### 基準価額の推移



#### 1万口当たりの費用明細

(2022年2月26日～2023年2月27日)

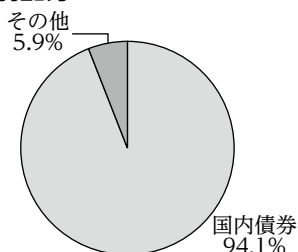
項目	金額	比率
(a) 信託報酬	24円	0.221%
(投信会社)	(15)	(0.144)
(販売会社)	( 2)	(0.022)
(受託会社)	( 6)	(0.055)
(b) その他費用	2	0.014
(監査費用)	( 2)	(0.014)
合計	26	0.235

#### 組入上位10銘柄 (組入銘柄数：10銘柄)

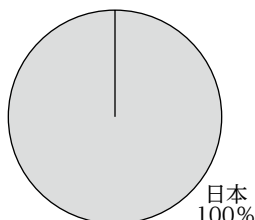
(2023年2月27日現在)

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
第91回利付国債（20年）	国債	2.3%	2026/9/20	日本	21.3%
第359回利付国債（10年）	国債	0.1%	2030/6/20	日本	12.8%
第117回利付国債（20年）	国債	2.1%	2030/3/20	日本	12.6%
第87回利付国債（20年）	国債	2.2%	2026/3/20	日本	8.6%
第354回利付国債（10年）	国債	0.1%	2029/3/20	日本	8.5%
第63回利付国債（20年）	国債	1.8%	2023/6/20	日本	7.4%
第351回利付国債（10年）	国債	0.1%	2028/6/20	日本	7.2%
第67回利付国債（20年）	国債	1.9%	2024/3/20	日本	6.7%
第80回利付国債（20年）	国債	2.1%	2025/6/20	日本	5.8%
第75回利付国債（20年）	国債	2.1%	2025/3/20	日本	3.1%

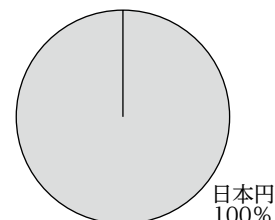
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



(注1) 1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。